

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	老年看護学総論	1(30)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	1学年前後期	15回	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目 標	老年期の発達課題や成熟現象を理解し、加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化について理解できる。 超高齢者の社会的現状を理解し、高齢者とその家族がかかえる問題について関心をもてる。 高齢者をとりまく保健医療福祉制度の動向を知り、高齢者の暮らしがわかる。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	老年看護の概念	1.老年看護学の変遷と高齢者の定義 2.高齢者の発達とスピリチュアリティ
	2	高齢社会の統計的特徴	1.高齢化率からみる超高齢社会 2.老年期の健康と暮らし
	3	加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化	1.加齢と老化
	4		2.疾病をめぐる特徴 3.老年期の知能・人格・創造性 4.高齢者のヘルスアセスメント
	5	高齢者に関わる倫理	1.高齢者差別 2.高齢者の権利と擁護（高齢者虐待と予防・身体拘束） 3.成年後見制度
	6	高齢社会における保健・医療・福祉	1.保健医療福祉制度の変遷 2.介護保険制度のしくみ 3.高齢者医療のしくみ
	7	高齢者の理解 地域で暮らす高齢者を知る	1.「老いを生きる」ことへの理解を深める
	8		グループワーク
	9		1) 高齢者を理解するためにライフヒストリーを聴き、高齢者が生きてきた時代背景を知る
	10		2) 高齢者が実際に利用している介護・福祉サービス
	11		3) 高齢者が社会生活で抱えている実際の問題
	12		街角アンケートを実施し、高齢者とふれあいながら理解を深める
	13		
	14		*グループワーク後に発表会の実施
15	老年看護の役割	1.老年看護の役割 2.老年看護の目標と原則	
	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 高齢社会白書 内閣府		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	老年看護学 I	1(30)	専任教員
	開講時期	講義回数	
	2学年前期	15回	
実務経験		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
目 標	高齢者の日常生活で、食事・排泄・清潔・活動における安全で自立した生活への援助方法がわかる。 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化や特徴を理解し、健康回復に必要なアセスメント方法がわかる。 高齢者の特徴を踏まえ、効果的なコミュニケーション技術を活用した日常生活援助の方法を考えることができる。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	高齢者の生活機能を整える看護	1.高齢者の日常生活における基本動作 2.栄養状態の変調とアセスメント 3.サルコペニア、フレイルの予防
	2	高齢者の安全な食事を支える看護	1.加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 2.食事の前・中・後の観察とケア(誤嚥の予防) 3.脱水予防 4.義歯取扱い
	3	高齢者の排泄を支える看護	1.高齢者の排泄ケアの基本 2.排泄リズムの再獲得 3.排尿障害・排便障害のアセスメントとケア
	4	高齢者の清潔と身だしなみを支える看護	1.高齢者にとっての清潔の意義 2.高齢者に生じやすい皮膚障害 3.セルフ能力のアセスメントと清拭・入浴の援助 4.高齢者にとっての身だしなみ
	5	高齢者の活動と休息に関わる看護	1.高齢者の生活リズム 2.加齢に伴う睡眠と覚醒の変化 3.高齢者にみられる睡眠障害 4.転倒のリスクアセスメントと看護
	6	高齢者の廃用症候群と褥瘡予防	1.廃用症候群の早期発見と予防 2.褥瘡発生要因のリスクアセスメント
	7	高齢者とのコミュニケーション	1.加齢に伴う視覚・聴覚機能の変化 2.高齢者とのコミュニケーション方法
	8	高齢者の健康障害と看護	1.高齢者におこる症状のなりたちと臨床的特徴 2.症状のアセスメントと看護 (発熱・痛み・掻痒・脱水・浮腫・倦怠感・便秘)
	9		
	10 11 12 13 14 15		
		嚥下障害のある高齢者の食事の援助技術	1.麻痺があり、嚥下障害のある高齢者の食事介助グループに分かれて、安全で安楽な援助方法を考える 1)麻痺により、座位姿勢が保てない患者の姿勢の保持 2)嚥下困難があり、食事形態の工夫 3)握力の低下に対する食器や自助具の工夫 4)難聴のある高齢者に対する声かけの工夫や配慮
		テスト	
教科書 参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	講師所属
専門分野	老年看護学Ⅱ	2(45)	外部講師
	開講時期	講義回数	
	2学年前後期	22回	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
目 標	老年期に罹患しやすい疾病の特徴をとらえ、高齢者の看護について学ぶ。 身体の可動性障害を多角的にとらえ、日常生活への影響について理解する。 コミュニケーション障害をもつ高齢者に対するアセスメントと援助方法がわかる。 認知症高齢者の理解を深め、その人らしい生活を支援するための援助方法がわかる。		
授業内容	回	項 目	内 容
	1	身体疾患のある高齢者の看護	1.高齢者の疾病の特徴 2.主な疾患(脳卒中・心不全・糖尿病) *病態生理、症状、治療と看護、急性増悪の予防
	2		1.呼吸器疾患 (慢性閉塞性肺疾患・肺炎・インフルエンザ)
	3		1.運動器疾患 (病態・症状・治療・看護の要点) 1) 脊椎圧迫骨折 2) 上肢の骨折(上腕骨骨折・橈骨骨折) 3) 下肢の骨折(大腿骨頸部骨折)
	4		
	5		1.脳神経疾患 2.せん妄・失語症・構音障害のある患者の看護
	6	身体可動性のある高齢者の看護	1.寝たきり状態にある高齢者の看護 (合併症予防と家族への支援)
	7	薬物療法を受ける高齢者の看護	1.加齢に伴う薬物動態の変化 2.高齢者に特徴的な薬物有害事象 3.薬物療法における援助
	8	入院治療を受ける高齢者の看護	1.入院による環境の変化と高齢者への影響 2.検査を受ける高齢者の看護 3.手術を受ける高齢者の看護
	9	高齢者のリスクマネジメント	1.高齢者と医療安全 2.高齢者特有のリスク要因とアセスメント 3.高齢者におこりやすい医療事故とその対策
	10	リハビリテーションを受ける高齢者の看護	1.リハビリテーションを必要とする高齢者の特徴 2.退院調整と退院支援 3.多職種との連携
	11	認知症高齢者の看護	1.認知症高齢者の看護 1) 生活機能評価 2) 認知症高齢者の日常生活援助とコミュニケーション 3) 認知症高齢者と家族へのサポート
	12		
13			
14			
15	2.認知症高齢者の事例を通して、認知機能の低下やBPSDが日常生活に与える影響について考え、その人らしい生活を維持するために必要な援助を学ぶ。		
16			
17	1) 目標思考型思考で認知症高齢者をとらえる		
18	2) 認知症高齢者の環境調整		
19	3) 認知症高齢者とのコミュニケーション		
20	4) できることを引き出し、尊厳のある関わり方を考える		
21	*グループワークをしながら「その人らしい生活」が考えられるようにする		
22			
23	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論		
評価方法	筆記試験にて評価を行う (各50点とし合わせて100点とする)		